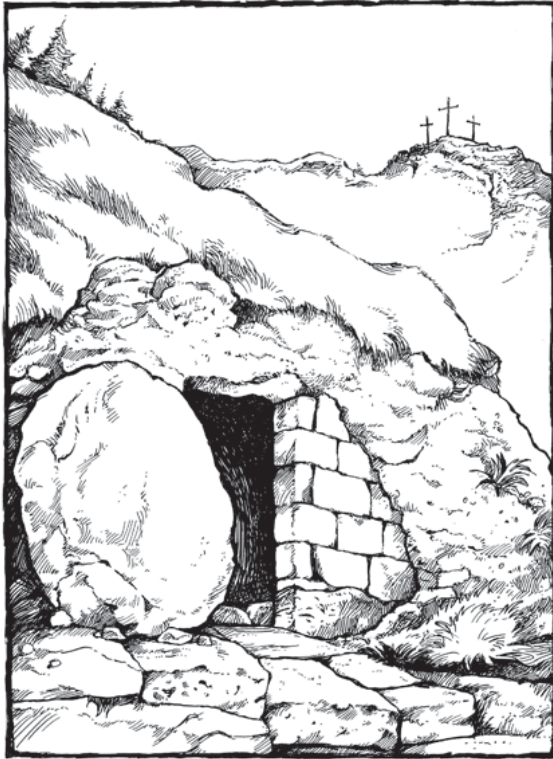


## イエスさまは、本当によみがえられたのか？

マスタードシード・クリスチャン教会 神戸

ケビン・ウエスト、島谷 知明



一年ほど前に初めて教会の礼拝に参加した私の友人は、その後、自分が出会ったクリスチャンたちをありがたく思うようになり、敬意を払うようになりました。そして、自分もまたクリスチャンになるべきだろうかと考え始めました。しかし、彼はこの最後の一つの疑問を抱え、葛藤していました。「イエスの復活は本当なのだろうか？」私は、彼の葛藤に拍手を送りたいと思います。それは、この疑問こそ、問うべき正しい疑問だからです。

キリスト教の真理は、イエス・キリストの、肉体を伴った、歴史的事実としての死者からの復活という事実の上に成り立っています。聖書自体がそれを認めています。「キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。（第一コリント 15:14）」クリスチャンは、「悔い改めてイエスを信じた者は永遠のいのちを持つ」というメッセージを宣べ伝えています。しかし、もしイエスさまご自身が本当に死者の中からよみがえられなかったのなら、どうしてこのメッセージを、自信をもって語ることができるのでしょうか？確かに、このメッセージは信じがたいものです！確かに、このメッセージは啞然とさせられるものです！確かに、このメッセージは奇跡以外の何ものでもありません！けれども、イエスさまは、確かに死者の中からよみがえられたのです！この主張を

(1) 復活の3つの証拠と(2) 復活に対する4つのよくある反論という2つの角度から検討してみたいと思います。

## 復活の証拠

### 1. 新約聖書は歴史的に信頼に値する

新約聖書やその他の古の文書の歴史的信頼性を、どうやったら確かめることができるのでしょうか？まず尋ねてみるべきは、その文書の現代版がそれを記した昔の著者たちのもともとの言葉を反映しているかどうかということです。言い換えれば、「長い年月に渡って、その文書は誠実に写され、伝えられて来たか」ということです。この疑問は、おもに写本を精査することによって答えられます。そして、この点に関して言えば、新約聖書は、他のどんな古の文書よりも、ずっと信頼に値します。なぜなら、一般的に良く知られているプラトンやヘロドトス、アリストファネスなどによる古典作品には、1

～20の写本しか存在していないのに対し、新約聖書の写本は5400ものギリシャ語の写本が存在するからです。これほどの数の写本を、本文批評と呼ばれる手法を用いて分析すれば、かなり正確なもとの言葉が分かるのです。

しかし、このようにおっしゃる方もおられるでしょう。「確かに現代のギリシャ語の新約聖書は2000年前の原典を正確に反映しているかもしれない。しかし、そもそも最初の時点で間違っているかもしれないではないか...」この疑問に簡潔に答えるために、歴史的文書を最も信頼に値するものとするのは、目撃証言であるという事実を絞ってお話します。

新約聖書は、9人の異なる著者によって書かれた27の書巻からなっており、著者の多くはイエスが十字架で死なれた前後に実際にイエスのことを目撃した証人でした。多様に富んだ観点で記されたそれぞれの書巻が一つの書物とされるのに十分な一貫性を持っているのは、彼ら一人ひとりが自分の記したことを実際に目撃した事実に、その理由の一端があります。そんな著者の一人であるヨハネは、このように主張しています。「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝える... (第一ヨハネ1:1、3)」 実際、もし新約聖書の著者たちがイエスの直接的な目撃者でなかったなら、彼らの書簡は当時の読者たちに対して、何の信頼性も持てなかったでしょう。であれば、すべて歴史を通じてのベストセラーになるほど、聖書は普及しなかったでしょう。

それゆえ、新約聖書をお読みになる時、あなたは、イエスが奇跡を行われ、人々を癒され、水の上を歩かれ、真理を教えられ、十字架で死なれたという事実、そしてイエスの死者からの復活に関わるその後の出来事を、実際に目撃した人たちの言葉を読んでおられるということです。そして、彼らの言葉の正しさは、彼らの血によってさらに裏付けられています。彼らのほとんどは、自分が書いた事柄を最後まで否定しなかったために死んでいるのですから...

もしあなたが正直な人であり、新約聖書に記された復活の事実を拒絶しようとされるなら、おそらく次の二つのどちらかをしなければなりません。(1) 他のあらゆる古の文書とそれに付随するあらゆる解説書を否定するか(新約聖書は他のすべての古の文書よりも歴史的により信頼性が高いと証明されているので...)、あるいは、(2) 著者たちのことを嘘つきか狂信者だと言って、彼らの信頼性を傷付けるか。しかし、もし彼らの信頼性を疑うとおっしゃるな

ら、おそらくあなたは彼らの言葉を本当には読んでおられないと私は思います。

## 2. 空っぽの墓

復活に関する一つの重要な目撃証言が、空っぽの墓です。 イエスさまが死なれたのは、金曜日、ローマの十字架上でのことでした。 そして、彼は墓へと収められたのです。 当時の権力者たちとイエスに付き従う人たちの両方が、その墓がどこであるかということを正確に知っていました。 それは、アリマタヤのヨセフと呼ばれる裕福な人の所有する墓でした。 イエスの身体が墓に収められた後、1～2トンもの大きな石が墓の入口を塞ぎ、誰も出入りできないよう、二人のローマ兵が入口を見張りました。

しかし、日曜日の朝、不可能なことが起こりました！ 石はどかさされ、墓は空っぽになっていたのです。 どうしてそんなことが起こり得たのか？ イエスを良く知っていた、マグダラのマリヤという女は、こう尋ねました - 「彼らは主の身体をどこへ持って行ったのでしょうか？」 イエスの友人や弟子たちまでもが、この出来事に困惑しました。 そして、彼らはすぐにその答えを見つけました：十字架で死なれた彼らの師は、もはや死人の内にはおられないということを…。 マタイの福音書16:21（「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」）を始めとする新約聖書の中で、その方自身が預言されていたように、その方は死者の中からよみがえられたのだということを…。

なぜ墓は空っぽだったのでしょうか？ 処刑されたばかりの偉大で有名な師の身体は、どこへ行ったのでしょうか？ 復活の話は、もしイエスの敵対者が信頼に値する説明を見出せていたら、とっくに消え去っていたことでしょう。 ところが、その当時も、今も、それができないでいるのです。 イエスの肉体的、歴史的な復活こそが唯一の充分なる説明であり、それこそが真のクリスチャンたちが何世紀にも渡って信じて来た理由なのです。

## 3. 変えられた弟子たち（多くの目撃証人）

イエスには、およそ3年間、彼と生活を共にし、彼に付き従った12人の弟子たちがいました。 彼らは、自分たちの偉大なる指導者が、十字架にかけられるために兵士たちに捕らえられた時、いったい何をしていたのでしょうか？

私のように多くの映画を見て来た人たちは、彼らは何らかの入念な救出作戦を

計画しただろうと期待するかもしれません。ところが、聖書の記述は、これらの弟子たちは単純で、教養がなく、弱く、意気地のない者たちであったという私たちの考えをむしろ強めてくれます。約3年間も付き従って来た師匠から離れないように頑張るところか、彼らのほとんどは、その場から逃げ去ったのです。それどころか、弟子のリーダー格であったペテロでさえ、自分がイエスに従っている者であることを、なんとその口で3回も否定したのです。

ところが、彼らは変えられます。突如として、この弟子たちが恐れ知らずの勇敢な者とされるのです。迫害を恐れて隠れるのではなく、彼らは堂々とイエスのメッセージを宣べ伝え始めます。実際、ペテロは、エルサレムで、おそらく自分の主を十字架にかけた人たちの多くがいる中で、最初のクリスチャンのメッセージを宣べ伝えたのです。そんな勇敢さがどこから来たのでしょうか？人はそんな短期間にそこまで劇的に変えられるのでしょうか？これらの質問に対する最善の答えは、イエス・キリストが死者の中から確かによみがえられたので、弟子たちはもはや死を恐れなくなったからという説明であり、それこそが、最も納得のいく答えでもあるのです。

使徒の働き1:1-3で言われているように、イエスさまは弟子たちがご自身の復活の目撃証人になるように仕向けられました。そして、第一コリント15:6には、500人以上の目撃証人がいたことが記されています。これこそが、キリスト教の起源です。イエス・キリストがよみがえったという事実をその目で見たことによって人生が変えられた、第一線における目撃証人を通して、キリスト教は始まったのです。

## 復活に対する反論

イエスの復活の証言を無視するのは、正直な態度ではありません。もし復活を拒絶したいのであれば、その証拠に関する他の説明を持たなければなりません。いくつかの他の説明のアイデアは、あまりにも馬鹿げているので、すぐさま退けられます。たとえば、「イエスの身体はエイリアンによって取り去られた」とかいった類のもです。また、イエスは日本とかどこか遠い場所に旅に出て、今はそこに埋められているとかいう歴史的に根拠のない主張もあります。そこで私は、様々な人たちの数えきれないほどの馬鹿げた主張を扱う代わりに、キリスト教信仰に対する真剣な批判者たちによる、より一般的に用いられ

ている復活に対する4つの反論を取り扱いたいと思います。 (1) 気絶説：「イエスは死んだのではなく、気絶していた」 (2) 陰謀説：「人々を欺くために弟子たちが創作した」 (3) 神話説：「復活の話は歴史的事実として捉えられるべきではない」 (4) 幻影説：「弟子たちが復活したキリストを見たというのは、単なる幻影に過ぎない」

## 1. 気絶説

この説は、このように言うことによって、空っぽの墓という疑問に答えようとしています。「墓が空っぽだったのは、イエスが十字架から下ろされた時、完全には死んでいなかったからだ。十字架上ではただ死んだように見えただけで、実のところ、彼は気絶していたのだ。墓に収められた後、彼は力を回復し、日曜日の朝に出て来ることができたのだ。」この気絶説を唱えた初期の支持者の一人にポーラス（1828年）という名の神学者がおり、今日もこの説を支持する人はいます。特に、南アフリカのアーメド・ディーダットのような説教者や弁証者によって、イスラム教徒の輪の中で支持されています。クリスチャンたちはこの説に対していくつかの応答をしていますが、19世紀にこの気絶説を批判した初期の学者の一人、デイビッド・ストラウスを引用するのが、おそらく最も良いでしょう。

「医療処置を求めて弱々しく病人のように這いつくばり、包帯と回復と介抱を必要とし、自分の苦しみについて敗北してしまった、墓から盗み出された“死にかけ”が、自分の弟子たちに対して、自分こそが死と墓に対する勝利者であり、いのちの君であるという印象、彼らの将来の働きの基礎となるような印象を与え得ることは不可能である。そのような蘇生は、自分こそが生も死も司っているという印象をかえって弱めるだけであり、せいぜい沈鬱な気分を加えるだけで、弟子たちの悲しみを熱狂に変えたり、彼らの恭順を礼拝に高めたりすることは絶対にできない。」

興味深いことに、このストラウス自身、クリスチャンではなく、復活を受け入れていませんでした。そんな彼が、気絶説の脆弱さを示しているのです。（彼は神話説の支持者だった。）

## 2. 陰謀説

この説は、今日も未だに広く受け入れられている、おそらく復活に対する最も古い反論です。陰謀説は、イエスは死からよみがえったと信じるように世を欺くために、弟子たちがイエスの身体を盗んだと主張しています。スペースを節約するために、この説が理屈に合わない理由を2つ記すことにします。

1. 新約聖書を読めば、その著者たちがいかに正直であり、高潔であるかということが感じ取れます。彼らは、信者たちに対して熱心に正直さと透明性を呼び掛けているだけでなく、彼ら自身、自分の罪を隠してはいません。そのような正直な人たちが、自分たちが嘘であると知っていることの上に、自分たちの教えを築くでしょうか？
2. 陰謀説に対する最高の反論は、死者の中から復活したイエスに出会った人が何百人もいると、聖書が主張しているという点でしょう。これらの目撃証人たちが最初のクリスチャンとなったのです。また、これらのクリスチャンは厳しい迫害に晒され、時には自分の財産を失い、虐待され、殺されさえました。しかし、そんな迫害下にあいながらも、彼らの内のたった一人さえも、「あれは嘘でした！」とか、「実はイエスには会いませんでした」とか、「もう耐えられない！ あれは私たちが作り出したのです！」というようなことを言って、自分たちの証言を翻したという記録はありません。人は時として自分が信じる何かのために死ぬことさえ厭いません。しかし、人は決して自分が嘘であると知っている何かのために死ぬことはありません。

### 3. 神話説

神話説にはいくつかの異なるバージョンがありますが、それらはすべて、私たちが今日手にしている新約聖書は、神話的なものであるという考えに行き着きます。ある人たちは、弟子たちは文字通りに復活が信じられることを意図していなかったと信じています。またある人たちは、後の編集者たちが本文に超自然的な要素を付け加えたと信じています。そして、「歴史上のイエス」は、奇跡を行い、死者の内からよみがえった神の御子ではなかったと結論付けます。この説に対する反論のポイントをいくつかご紹介します。

1. 福音には、私たちが神話の中には登場することを期待していない次のような要素が含まれている：
  - この物語における鍵となる瞬間、「復活」の瞬間に関する説明も証言も見つけられない。

- 最初の証人たちは、権威のある人たちではなく、むしろ女性たちだった。古代ギリシャやユダヤの文化において、女性の証言は重要であるとも、価値あるとも考えられていなかった。
  - 新約聖書は彼らによって書かれたとされているにもかかわらず、弟子たちは不名誉なかたちで描かれている。例えば、空っぽの墓で彼らは喜ぶどころか、彼らの最初の反応は驚きであり、困惑であり、疑いでさえあった。
2. 新約聖書の著者たちは、自分の書いたものを神話どころか、むしろ歴史的なもののみなしていた。ルカはこう言っている – 「私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていたきたいと存じます。(ルカ1:3-4)」 ペテロもこう言っている – 「私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。(第二ペテロ1:16)」 もし著者たち自身による明白な主張を拒むのであれば、彼らを嘘つきにしているのであり、前述の陰謀説に戻ることになるのです。
3. この説の最大の問題点は、ただ単に、証拠がないということなのかもしれません。この説は、もし新約聖書の中のイエスとは異なる「歴史上のイエス」を描いた何らかの写本や考古学的証拠があれば、いくらかの重みを持っていたかもしれません。ところが、私たちの持っている証拠は、イエスは神であると信じられていたか、あるいは、新約聖書自体が主張しているように、本当に神であるかのどちらかを指し示しているのです。ところが、そうでないことを示す明らかな証拠を提示することなしに、この説は、私たちの持っているすべての歴史的証拠は偽りであると私たちに結論付けるよう迫っているのです。

#### 4. 幻影説

この説は、イエスの弟子たちは、単に自分たちがイエスを見たと思っていただけで、実のところ、それは幻影に過ぎなかったというものです。これに回答するに当たって、まずイエスが十字架で死なれてから20年も経たない頃に使



徒パウロが記したこの言葉のような事実について考えてみてください：「私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。（第一コリント15:3-8）」 この手の情報は、幻影説にいくつかの大きな穴があることを明らかにします。例えば、以下のような事柄です。

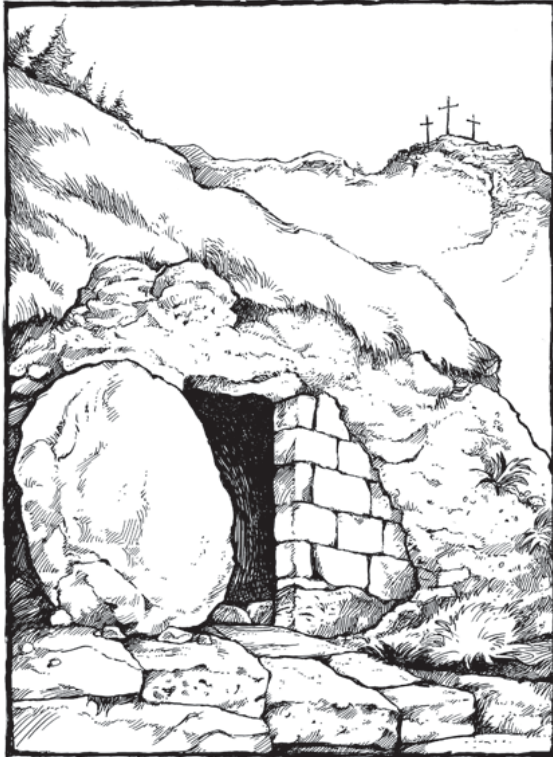
1. 幻影で片付けるには、目撃証人が多過ぎる。何百人もの目撃証人がいただけでなく（ある時は、同じ場所、同じ時間に500人の目撃者）、よみがえられたキリストは少なくとも6つの異なる場面で見られたことが記録されている。それほどまでに多くの人が、異なる場所と時間に同じ幻影を見ることなど、起こり得るだろうか？ 新約聖書は、復活について聞き及んだ初期の人たちに、その主張が本当かどうか、その多くはまだ生きているので、ぜひ目撃証人たちと話して確認するようにと勧めてさえいる。
2. 幻影は、通常、数秒間から数分間しか続かない。ところが、イエスの弟子たちは彼に会って、40日間も彼と共にいたと主張している。
3. 幻影は、通常、精神に異常をきたしていない限り、一度限りしか起こらない。
4. 幻影は、通常、その人が既に知っている事柄に関わっている。ところが、弟子たちは最初、驚き、信じられず、理解することさえできなかった。
5. 弟子たちは単にイエスを見ただけ（幻影の場合はよくあること）ではなく、イエスと関わったと主張している。例えば、イエスは彼らと一緒に食事をし、彼らが話しかけた時にはそれに答えられた。
6. 幻影説は空っぽになった墓や石が転がされていたことに関して説明できない。もし説明できていたなら、敵対者たちは、決定的に彼らの話の信頼性を傷つけるために、あれは彼らの幻影だったと早速にその機会を活用していたことだろう。

上述した事柄は、復活に関するいくつかの証拠を簡単にまとめたものに過ぎません。けれども、真剣な懐疑論者たちを困らせるには十分でしょう。懐疑的な態度をもって議論に入った人の多くが、最終的には、反対側のイエスさまに対する信仰に至っています。リー・ストロベル氏はまさにそのような方です。彼はもともと極めて懐疑的な調査好きなジャーナリストでした。ところが、証拠が彼をクリスチャンになるようにと導いたのです。この議論をもっと深く掘り下げたい方たちに、「ナザレのイエスは神の子か？」などの彼の著作をぜひお勧めしたいと思います。

しかし、すべての人が、そのような道筋を通してクリスチャンになるわけではありません。普通、人はクリスチャンの友だちを作るところから始まります。導入部で紹介した若者と同じようにです。彼は、結局、クリスチャンになりました。復活の合理的な証拠は、彼にとって、確かに励ましにはなったでしょうが、彼は、それよりもずっと前に、心のどこかで既にイエスさまを愛し始めていたに違いありません。細かい議論に関して知ることよりも、その手の隠れた信仰の方がもっと重要なのかもしれません。最後に、復活の合理的な証拠と見えない信仰が互いに矛盾し合わないことをもって、神様をほめたたえたいと思います。

## **Did Jesus Really Rise from the Dead?**

*Mustard Seed Christian Church – Kobe, Kevin West*



A friend of mine, after attending his very first church service, came to appreciate and respect the Christians he met and began considering whether he too should become a Christian. But he struggled with the question: “Is the resurrection of Jesus really true?” I applaud his struggle, because *this* question is crucial!

The truth of Christianity rests on Jesus Christ’s real, physical, and historical resurrection from the dead. The Bible itself admits, “...*if Christ has not been raised, then our preaching is in vain and your faith is in vain*” (1 Corinthians 15:14). Christians preach the message that those who repent and believe in Jesus will have eternal life, but how can we be confident of that if Jesus Himself did not actually rise from the dead? Yes, it is incredible! Yes, it is mind-boggling! Yes, it is a miracle! But Jesus *really* did rise from the dead! Let’s consider this claim from two angles: (1) 3 pieces of evidence for the resurrection (2) 4 common arguments against the resurrection.

## EVIDENCE FOR THE RESURRECTION

### **(1) The New Testament is historically reliable.**

How might we test the historical reliability of the New Testament, or any other ancient document? One question to ask is whether what its modern version reflects the original wording of its ancient authors. In other words, “Has it been faithfully copied down over the ages?” This is largely answered by examining the manuscript evidence, and the fact is that the New Testament is overwhelmingly more credible than any other ancient document. Where we find one to 20 manuscripts for well-known classical works (like Plato, Herodotus, Aristophanes), we find around 5,400 Greek language manuscripts for the New Testament! Analysis of these manuscripts through the discipline called, textual criticism, gives us a highly accurate determination of the original wording.

But here someone might say, “Even if our modern Greek New Testament reflects the original writings 2,000 years ago, what if those writings were false in the first place?” For the sake of brevity, let us focus on the fact that the most trustworthy type of historical writing is *eyewitness testimony*.

The New Testament contains 27 books written by nine different authors, many of which were actual *eyewitnesses* of Jesus before and/or after he died on a cross. The reason so many diverse viewpoints agree enough to comprise one consistent book is partly because of the fact that they actually witnessed what they wrote about. One such author, John, insists on this, “*That which was from the beginning, which we have heard, which we have seen with our eyes, which we looked upon and have touched with our hands...that which we have seen and heard we proclaim also to you*” (1 John 1:1,3a). Indeed, if the New Testament authors were not direct witnesses of Jesus, their writings would likely never have found credibility with their contemporary audience, let alone would they have spread enough to form the best-selling book in all of history!

In conclusion, when you read the New Testament, you are reading the words of people that saw Jesus do miracles, heal people, walk on water, teach the truth, die on a cross, and the following events surrounding his resurrection from the dead! The words are even backed with the blood of its authors, as most died because they would not deny the things they wrote.

If you are an honest person and want to reject the fact of the resurrection as recorded in the New Testament, you probably must do one of two things: (1) Deny all other ancient documents and their corresponding accounts (since the New Testament is historically more reliable than all other ancient documents). Or (2) discredit the authors themselves by saying they are, for example, *liars* or *lunatics*. But if are willing to say that about them, I am sure that you have never really read their words.

## **(2) The empty tomb**

One important piece of the eyewitness testimony about the resurrection is *an empty tomb*. It was on a Friday in the city of Jerusalem where Jesus died on a Roman cross and was then put into a grave. Both the authorities and Jesus’ own followers knew exactly where that tomb was: It was the tomb of a wealthy man called *Joseph of Arimathea*. After Jesus body was put inside of the tomb, a great stone (1 to 2-tons) was rolled over the entrance of the tomb, and two Roman soldiers were posted in front day and night so no one could go in or out.

But then, on Sunday morning, the impossible happened! The stone was found rolled away and the tomb was found empty. How was it possible? A woman who knew Jesus, called Mary Magdalene, asked, “Where have they taken his body?” Even Jesus’ own friends and disciples were confused. They soon found the answer: their teacher who had died on a cross was no longer dead. He had risen from the dead, just as he had predicted in New Testament passages like Matthew 16:21, “From that time Jesus began to show his disciples that he must go to Jerusalem and suffer many things from the elders and chief priests and scribes, and be killed, and on the third day be raised.”

Why was the tomb empty? Where was the body of the great famous teacher who had just been executed? The story of resurrection would have been stopped dead in its tracks if any of Jesus’ enemies had found a credible explanation. Yet no one could, then or now. A physical and historical resurrection is the only sufficient explanation, and that is one reason true Christians have believed in it over the centuries.

### (3) **The transformation of the disciples (many eyewitnesses)**

Jesus had 12 close disciples who had lived with him and followed him for about 3 years. Yet what were they doing when their great leader was being taken by soldiers to die on a cross? Those of us who watch too many movies, like me, might expect them to have been planning an elaborate rescue mission. But the Bible’s depiction of these disciples rather reinforces our idea that they were simple, uneducated, weak, and somewhat cowardly. Rather than sticking with their rabbi of around 3 years, most of them ran away. The lead disciple, Peter, even thrice denied that he was one of Jesus’ followers.

And then the transformation: Suddenly, these disciples are fearless! Rather than hiding from persecution, they begin boldly proclaiming the message of Jesus. Peter, in fact, preached the first Christian sermon in Jerusalem itself, probably among many of the same people that had crucified His Lord. Why such newfound boldness? Do people usually change that drastically in such a short time? The best explanation is the one that makes the most sense: Jesus Christ rose from the dead, so the disciples were no longer afraid of death.

And as we are told in Acts 1:1-3, Jesus ensured His disciples would become eyewitnesses of His resurrection. In fact, we are told in 1 Corinthians 15:6 that there were more than 500. This, then, is how Christianity began: Through first-hand eyewitnesses whose lives had been transformed by what they saw: Jesus Christ resurrected.

## ARGUMENTS AGAINST THE RESURRECTION

Ignoring the testimony of Jesus' resurrection is simply not honest. If one wants to reject the resurrection, one must have some alternative theory to explain the evidence. Some alternative ideas can be rejected outright, because they are ridiculous. For example, some have suggested that "Jesus' body was taken by aliens." Or, there are the historically unsubstantiated claims that Jesus traveled to a faraway place (like Japan) where he is now buried. Rather than dealing with countless silly claims of random individuals, I will address four arguments against the resurrection that are more generally used by serious critics of the Christian faith. (1) *The swoon theory*: "Jesus did not die; He fainted." (2) *The conspiracy theory*: "The apostles made it up to deceive people." (3) *The myth theory*: "The resurrection story should not be considered historical fact." We will look at the other two next week, when Pastor Ethan preaches in English. (4) *The hallucination theory*: "The disciples vision of the risen Christ was only a hallucination."

### **(1) *The swoon theory***

This theory attempts to answer the question of the empty tomb by saying, "The tomb was empty because Jesus was not completely dead when he was taken down from the cross. He had 'swooned' while on the cross and merely *appeared* dead. After being put in the grave he recovered his strength and was able to come out on Sunday morning." One of the early proponents of this swoon theory was a theologian by the name of Paulus (1828), and this theory continues to find support today. It is especially endorsed by Muslim circles by preachers and apologists such as Ahmed Deedat of South Africa. Christians have several responses to this theory, but maybe the best way to present the argument is by quoting one of the first scholars who criticized the swoon theory back in the 19<sup>th</sup> Century, David Strauss:

*“It is impossible that a being who had stolen half-dead out of the (tomb), who crept about weak and ill, wanting medical treatment, who required bandaging, strengthening and indulgence, and who still at last yielded to his sufferings, could have given to his disciples the impression that he was a Conqueror over death and the grave, the Prince of Life, an impression which lay at the bottom of their future ministry.... Such a resuscitation could only have weakened the impression which he had made upon them in life and in death, at the most could only have given it an (melancholic) voice but could by no possibility have changed their sorrow into enthusiasm, have elevated their reverence into worship.”<sup>1</sup>*

Interestingly, Strauss himself was not a Christian and did not accept the resurrection. He was merely showing the weakness of *the swoon theory*. (He was a proponent of a version the myth theory.)

## **(2) The conspiracy theory**

This was probably the earliest argument against the resurrection and continues to find popular approval today. The conspiracy theory claims that the disciples stole the body of Jesus away to trick the world into believing that Jesus rose from the dead. To save space, I will only give two reasons this does not hold water:

- i. As we read the New Testament, we sense the honesty and integrity of its authors. Not only do they passionately call believers to honesty and transparency, but they themselves do not hide their own sins. How could such honest people base their entire teaching on something they know is a lie?
- ii. Here is the best argument against the conspiracy theory: The Bible claims that hundreds of people saw Jesus after he rose from the dead. These eyewitnesses became the first Christians. And those Christians were persecuted harshly, sometimes losing their possessions, being tortured, or even being killed. Yet there is no evidence that even one of them ever relented of a supposed lie during such persecution by saying something like, “It was a lie!” Or, “We didn’t really see Jesus.” Or, “I can’t take it anymore, I confess we made it up!” People sometimes die for something they believe in, but they do not die for something they know is a lie.

---

<sup>1</sup> David Strauss, *The Life of Jesus for the People*, vol. 1, 2nd edition (London: Williams and Norgate, 1879), p. 412.



### **(3) The myth theory**

The myth theory has several different versions, but they all boil down to the idea that the New Testament, as we have it today, is mythological. Some believe that the disciples did not intend it to be believed literally. Others believe that later editors added supernatural elements to the text. The conclusion is that the “historical Jesus” was not the Son of God who did miracles and rose from the dead. Here are several points that counter this theory:

- i. The Gospels contain elements we would not expect in a myth, such as:
  - We find no explanation or witness of the key moment of the story: the resurrection itself.
  - Rather than the first witnesses being authoritative figures, they were women. In ancient Greek and Jewish culture, a woman’s testimony was considered unimportant or even worthless.
  - The disciples are depicted in ignoble ways even though the New Testament claims to be written by them: For example, rather than rejoicing at the empty tomb they first respond with surprise, confusion, and even doubt.
- ii. The New Testament authors present their own writings not as myths, but as historical accounts. Luke says, “...*it seemed good to me also, having followed all things closely for some time past, to write an orderly account for you, most excellent Theophilus, that you may have certainty concerning the things you have been taught*” (Luke 1:3-4). Peter says, “*For we did not follow cleverly devised myths when we made known to you the power and coming of our Lord Jesus Christ, but we were eyewitnesses of his majesty*” (2 Peter 1:16). If we are to reject the clear claims of the authors themselves, then we are calling them liars and reverting right back to the *conspiracy theory* above.
- iii. Perhaps the biggest problem with this theory is that it simply has no evidence. This theory could carry some weight if there was some kind of manuscript or archaeological evidence that depicts an “historical Jesus” different than the one we see in the New Testament. Rather, the evidence that we do have either says that Jesus was *believed* to be divine, or was (as the New Testament itself claims) indeed divine. Without giving us any evidence to the

contrary, this theory asks us to conclude that all the historical evidence that we *do* have is false.

#### **(4) The Hallucination Theory**

The theory is simply that Jesus' disciples only thought they saw Jesus but were only hallucinating. In response to this, consider facts such as what the Apostle Paul wrote down less than 20 years after Jesus died on a cross: *<sup>3</sup>For I delivered to you as of first importance what I also received: that Christ died for our sins...that he was raised on the third day...<sup>5</sup> and that he appeared to Cephas, then to the twelve. <sup>6</sup> Then he appeared to more than five hundred brothers at one time, most of whom are still alive, though some have fallen asleep. <sup>7</sup> Then he appeared to James, then to all the apostles. <sup>8</sup> Last of all, as to one untimely born, he appeared also to me.*" This kind of information reveals several gaping holes in the *hallucination theory*. Here are some of them:

- i. There were too many eyewitnesses for a hallucination. Not only were there hundreds of eyewitnesses (500 at the same time and place), but it is recorded that the risen Christ was seen on at least six different occasions. How could so many people have the same hallucination in varying times and locations? In fact, the New Testament challenges the first people who heard about the resurrection to examine the claim by talking to those eyewitnesses since many were still alive.
- ii. Hallucinations typically last only a few seconds or minutes, yet Jesus disciples claim to have seen him and been with him for 40 days.
- iii. Hallucinations typically happens only once except to the insane.
- iv. Hallucinations typically relate to something a person already knows, yet the disciples were surprised and could not believe or even understand at first.
- v. The disciples did not claim to merely see Jesus (as would be typical in a hallucination) but to relate to him. For example, Jesus ate with them and responded to them when they spoke with him.
- vi. A hallucination does not explain the empty tomb or how the stone was rolled away. Opponents would have quickly taken the opportunity to point out that it was a hallucination, thereby decisively discrediting their story.

The above is not more than a quick summary of some of the evidence for the resurrection, yet it should be enough to trouble any serious skeptic. Many who have entered the arguments with skepticism end up with faith in Jesus on the other side. Lee Strobel is one such case. He was previously a skeptical investigative journalist until the evidence led him to become a Christian. I recommend his books, like *The Case for Christ*, to anyone who wants to delve more deeply into the arguments.

But not everyone becomes a Christian that way. Usually people begin by making friends with Christians, like the young man I wrote about in the introduction. He finally did become a Christian. The reasonable evidence of the resurrection was an encouragement for him, but I am sure he had already begun to love Jesus somewhere in his heart long before that. Maybe that kind of hidden faith is more important than knowing the arguments anyway. In the end, I praise God that reasonable evidence of the resurrection and unseen faith do not contradict one another.